

2000年11月15日

モンゴルの遊びから体験

▼高島三小

10月16日、児童たちとモンゴルをもっと知ってほしいと千代田区にある研究所の人数が来校した。「学商環境リサーチ」に所属する研究スタッフで、主催者は大塚

文化大学の羽根(かひね)さん(専任講師)だ。

第一節は代表の家庭さんのあいらじのあてモンゴルを訪れた際の様子をたどる「天才を上映。同年代の子どもの遊び」あ・ら・う……「と日本語を勉強している様子を興味深く見ていた。その後、楽しみながら遊びを教えるも「らう。」「シャカ」「とらう、日本のおはじきのようなもので、長さ約4センチの奥歯を大きくしたような形をしていゑる。羊のくるぶしの骨で、モンゴルの子供がいる家庭にはどこのところにもある。40個くらいを指の上下に付け、指で強き当てるゲーム。はじめは「母」ときいて「なんか気持ち悪い」とけけんそんな表情の子どもたち。しかし、すぐに慣れ楽しそうに遊ぶ。たくさん取れた子はうれしそうにスタッフに見せていた。

第二節は、昨日(14日)のモンゴルでの体験を、黒田輝と「遊びの面白さ」が披露された。